

第2回函館市町会活性化検討会議議事録

○開催日時：令和2年1月29日（水） 9：30～12：00

○開催場所：函館市役所本庁舎8階大会議室

○出席者

委員：大矢委員，形部委員，神田委員，菊池委員，酒井委員，坂野委員，
笹谷委員，島香委員，竹内委員，常野委員，永澤委員，中山委員，
浜田委員，平形委員，山田委員，若林委員

オブザーバー：函館市町会連合会 中村事務局長

函館市教育委員会学校教育部 菊池学校教育指導監

函館市保健福祉部 和久井地域福祉課長

函館市保健福祉部 小棚木地域包括ケア推進課長

事務局：市民部 本吉部長，横川次長，米田市民・男女共同参画課長
奥ヶ谷主査，久保澤主事，播磨主事

函館市町会活性化検討会議 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 町会活性化のために必要な取り組みについて

3 その他

4 閉 会

..... 1 開 会

(事務局 奥ヶ谷主査)

それではお時間となりましたので、ただいまから、第2回 函館市町会活性化検討会議を開催いたします。私、本日司会を務めさせていただきます、函館市市民部市民・男女共同参画課の奥ヶ谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

会議につきましては、原則公開で行っております。また、会議録を公開いたします関係上、マイクを使用してご発言下さいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議は、委員18名中16名と、オブザーバー4名に出席いただいておりますことをご報告申し上げます。

また、今回の会議がはじめての出席となる委員の方を紹介いたします。

函館市町会連合会東部地区協議会の 浜田 克巳 委員でございます。

..... 2 資 料 確 認

(事務局 奥ヶ谷主査)

それでは、始めに、お手元の資料を確認させていただきます。

まず、「第2回 函館市町会活性化検討会議 次第」と「座席表」、「委員名簿」がございました。

次に、資料でございますが、

- ・資料1「町会活性化のために必要な取り組み」
- ・参考資料として、3種類、「函館市西部地区再整備事業町会活性化プロジェクトについて」、「町会活動に関する職員アンケート調査結果」「ホームページの修正について」、となります。

お手元の資料に不備等がございましたら、お知らせいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ここからの進行は、菊池座長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

..... 3 議 事

(菊池座長)

それでは、議事に入らせていただきます。

本日の会議につきましては、終了予定の目途を12時頃にさせていただきたいと思っております。議事進行へのご協力につきまして、よろしくお願いいたします。

議事(1)町会活性化のために必要な取り組みについて、配付資料を基に、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、まず始めに、

参考資料1 函館市西部地区再整備事業「町会活性化プロジェクト」について、ご説明いたします。

本プロジェクトは、人口減少や少子高齢化、町会加入率の低下などにより、町会の資金力や活動量が減少し、町会の存続にも大きな影響を与えていることから、市職員や学生等の新たな人材が町会に深く関わり、状況分析と方策の検討を町会と協働で行いながら、町会の活性化につなげることを目的としております。

今年度は、元町町会をモデルとして試行的にプロジェクトを実施しており、町会の代表者5名と市職員5名の計10名で、町会の現状や課題の共有、分析、まちあるき、活性化に向けた方策の検討を行ったところであります。

その結果、元町町会では、役員の担い手不足や行事参加者の高齢化、減少といった課題解決のため、子どもやその親が参加しやすい行事を実施することで、町会活動への参加や町会加入のきっかけにしようと考え、資料下段に記載の行事「丸めて食べよう つきたてもち&豆まき大会」を2月9日に実施するところでございます。

参考資料1については、以上でございます。

次に、参考資料2 町会活動に関する職員アンケート調査結果について、ご説明いたします。

市では、職員の町会活動への参加状況等を把握するとともに、今後の町会活動のあり方の検討の参考にするため、市職員に対し、町会活動に関するアンケートを実施したところであります。

その結果、職員の町会加入率は、67.5%となっており、市全体の町会加入率53.5%と比べると高くなっております。

すべての項目を説明している時間はありませんが、特徴的なものをご紹介します。

1ページをご覧ください。こちらは、町会への加入状況を、回答者の属性で比べておりますが、

- ・若年層よりも高年齢層
- ・独身よりも既婚者
- ・子どもがいないよりもいる世帯
- ・単身者よりも同居人がいる世帯
- ・短期間よりも長期間居住している世帯
- ・アパート・マンションよりも戸建住宅に住んでいる者

の町会加入率が高い傾向にあります。

グラフで見るとわかりやすいですが、①の年齢別で見ると、40歳以下の加入率を上げていくこと、⑥の居住形態別で見ると、アパート・マンション居住者の加入率を上げていくことが重要かと考えております。

6ページをご覧ください。

こちらは、未加入者に対し、加入しない理由などを聞いております。

未加入者の声を拾うことは難しかったので、有効な意見と考えております。

結果を見ますと、加入しない理由として、

- ・町会加入の勧誘が来ない
- ・活動内容がよくわからない

という理由が多く挙げられておりますので、勧誘の重要性を再認識したほか、活動内容の周知に力を入れることが必要と考えているところであります。

最後に、9ページには、自由意見を掲載しておりましたので、本日の議題の参考にしていただければと思います。

参考資料2については、以上でございます。

次に、参考資料3 ホームページの修正について、ご説明いたします。

まず始めに、市ホームページのトップページに「町会・自治会活動」のバナーを設置し、

町会・自治会のページに飛びやすいよう工夫したところであります。

また、市民の方のお住まいの地域がどの町会に属するかが分かるよう、町別の町会区域を新たに掲載したところであります。

皆様におかれましても、後ほど、ご拝見いただければと思います。

以上で参考資料の説明を終わらせていただきます。

次に、資料1「町会活性化のために必要な取り組み」をご覧ください。

こちらは、前回の会議で皆様から出たご意見を、取り組みの項目ごとに分類したものでございます。

順番に申し上げますと、

- ・情報発信、活動の見える化
- ・活動への参加、きっかけづくり
- ・人材
- ・外部ノウハウ活用
- ・連携
- ・町会内部の意識の多様化
- ・その他

となっております。

本日は、この資料も参考にしたうえで、町会活性化のために必要な取り組みについて、さらに意見出しをお願いしたいと思います。

また、取り組みを進める上で課題と思われること、具体的なアイデアなどもあれば、併せてお話しいただければと思います。

以上でございます。よろしく願いいたします。

(菊池座長)

ありがとうございます。

ただいま、ホームページの関係、西部地区再整備事業の関係、職員アンケートの結果について、ご説明がありました。

また、今回の議事、「町会活性化のために必要な取り組み」について、前回会議で出た意見を項目別に分類し、整理していただきましたので、これを軸に皆様からご意見をいただき、深めてまいりたいと思っております。

それでは、「町会活性化のために必要な取り組み」について、ご意見、取り組みを進める上での課題、アイデアなどを伺いたいと思います。ご意見等ある方は、挙手をお願いいたします。第1回会議で出た意見をまとめていただいておりますので、それらをベースにお話が出来たらと思います。

みなさまから出た意見としては情報発信や活動の見える化、活動への参加のきっかけづくり、外部のノウハウを活かしてはどうか、学校などと連携していく、また町会内部の意識を

変えていくといった話がありました。

具体的なアイデアとして、町会の活動費を税金で徴収するだとか、地域にどういった人が住んでいるのかということ共有していくことで災害時など有事のときには助け合うことができるのではないかと話もありました。

それでは、その中から順をおって話していきたいと思います。

まず、情報発信や活動の見える化についてです。

今、出ている内容だと、若い人は、パソコンやスマートフォン、タブレットなどでインターネットを活用していることが多いですが、一方で情報収集に関してインターネットなどを活用することが難しい高齢者に対しては情報が届きにくい。紙媒体の方も残していきたいですが、回覧板が単調になってしまうという問題点も挙げられていました。なので、手書きで書くといったわかりやすくPRが出来るような工夫が必要じゃないかという話がありました。紙媒体とデジタル媒体、メールやLINEといった両方を使って広報するというのも一つの手なのではないかと思います。

先ほど事務局から説明のあった市職員のアンケートにもありましたが、町会が何をやっているのかわからない、どういうメリットがあるのか、ということを知らないために関わりにくいという面もあると思いますので、そういうものも明確にしていくと良いという話も出たと思います。

他にも前回の会議の後に何か思うことや、アイデアがある方など何でも良いので、いろいろなお意見を出していただきたいと思います。情報発信や広報に関してさらにご意見やご提案がある方はごぞいませんか。

(神田委員)

函館市PTA連合会の神田です。

情報発信の件ですが、先日、1月25日の道新の記事ですが、道内の都市の町会独自のメール配信について記事が載っていました。

前回の会議で、メールを使って各家庭にまんべんなく情報が届くのは良いなと思って発言しました。その際、スマートフォンやパソコンがない方の問題が浮き彫りになったと思います。

道新の記事の中では、そういったスマートフォンなどが無い家庭のお隣さんの若い方が、高齢者や持っていない方の家に声をかけているということが載っていました。そういうこともありだと思いました。その後いろいろ考え、ツイッターなども役に立つなと思いました。若い方や私たちのような子育て世代の親はツイッターを使っている人が多いので、町会のツイッターやホームページがあるということがわかれば、そこにアクセスすれば町会が何をやっているのか一目瞭然でわかるということ、また新鮮で旬な情報が私たちは得られると思います。

しかし、スマートフォンなどを持っていない方々は難しいので、私たち世代が入ることでカバーするというのと、一番良いのはアプリがあってそこにアクセスすると旬の情報が出てきたら早いなと思うので、そういう使い方を講習して簡単な使い方をみなさんにお示しで

できれば早い情報提供ができて、災害時にも助かるし、若い人も加入することができるのではないかなと思いました。

(菊池座長)

ありがとうございます。

お隣の方に声をかけるということは素晴らしいのですが、そこに至るまでがご時世的にも難しいですね。しかし、若い方を取り込んでいく、もしくは高齢者の方も一緒になって活動できるような取り組みというのも必要だと感じます。

今のご意見に対して何かご意見等はございますか。

(酒井委員)

町会が高齢化が進んでいて役員のなり手もないということで、話をしていると思いますが、私も以前から考えていましたが、情報発信なども含めて町会の活動をしていく人がいないという現実があり、若い方を勧誘することも大事ですが、高齢者しかいない問題をどうしていくか堂々巡りになってしまうので、一つ一つ課題を分けて話していくことが重要だと思います。

それから、前回の会議終了後に何人かの方と話してみました。その時、情報発信に関しまして町会側に反省として投げかけられたことは、町会というのはこうあって当たり前ということが役員の中に根付いているということでした。

例えば、町会に入ってねと声をかけるとき、町会側はどうしてこの人は町会に入ってくれないのだろうという考え方を持っています。だけど町会に入らないということは、何か理由があるわけです。職員アンケートにも書かれていましたけど、やはり入らないということには入らないなりの理由があるので、私たち町会役員がその点をしっかりと受け止めて考えていかなければならない部分があるかなということが一つあります。

それと、地域、函館市もそうですが、いろいろな良い活動をしてくださっています。その良い活動を町会もなにかしていただきとなった時に、町会の活動としたらせっかく自分でやるからにはたくさん人を呼び込みたいと考えます。だけど他のところでも同じようなことをやっているのです、そういう場合に町会だけに限定しないで、一つにまとまって大きく活動していった方が良いのではないのでしょうか。町会的にも高齢化だとか人不足だとかの問題の解決に繋がって良いのではないかと考えます。

(菊池座長)

ありがとうございます。人材不足や高齢化が進んでいるといったことは、市全体、日本全国的にも共通しておりますが、それらを分けていくとなるとなかなか難しいところはあると思いますが、何かしら町会のあるべき姿や地域の活動の洗い出しをすることが大切だと思います。他に何かございますか。

(浜田委員)

前回の会議を欠席してしまいましたが、議事録を読ませていただきました。その中で感じるのが、「町会の活性化」＝「町会の加入率をあげること」として考えられているのであればいささか問題かなと思います。活性化ということは、住民とのつながりを強くする円滑に活動を行っていくことでしょうかと私は思います。

私は函館市内の東部の町内会の代表なのですが、東部の町内会は加入率が高いです。私の町内会でも加入率は90%を超えていますから、入っていない人がめずらしいというような状況です。一般的に合併前の旧4町村の町内会はほとんど加入率が高いです。

都市部の町会の加入率と東部の町会の加入率に極端に差がある理由はなぜだろうと思いますので、そういう点も研究していった方が良くはないかと思います。

類似性があるものが、選挙の投票率と町会の加入率が一致すると思います。旧4町村の投票率は80%くらいありますが、都市部は50%程度と聞いています。似たような傾向があると感じています。町内会に対する住民の意識の問題なのではないかと思います。これは、いろいろな社会的要素があると思います。旧4町村はだいたいみんな持ち家で隣近所との付き合いがある。私の町内会で会長の顔を知らない人はいないです。都市部だと会長や役員の顔を知らないところも多く、疎遠な関係といいますか、他にもいろいろとありますが、こういった機会にそういう部分も検討していくと何か良い答えが出るのではないかと思います。

酒井委員の言うようにテーマを細かく分けて話していかないと堂々巡りになってしまうと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。仰るとおりで、加入率の多い少ないと活性化はイコールではないですよ。 「活性化」というものがまず、何を指すのか、この会議で目指すところであると思いますし、前回から今回にかけて加入率をどうやってあげていくかという話になっていたことは否めないです。たしかに、加入率が100%になったとしても実際に活動している人がいないということであれば、絵に描いた餅になり何の解決にもなりません。

それでは、私の方からどのような町会が、どのような活動をしていけば活性化している町会だといえるのか、難しいとは思いますが、それぞれの町会によって性格や地域の特性なども異なるとは思いますが、どういう町会を目指しているのか、アイデアでなくてもいいので聞いていきたいと思います。

例えば、子どもたちが仲良くできるとか、高齢者が安心して暮らせるとか、子育て中のお母さんや子どもの顔なじみが作れるような場が良いとか、または他の町会で行っているものでいい取り組みだと思ふものがあれば教えていただきたいと思います。

(永澤委員)

町会活動にはいろいろな形があり、一概にこれが良いからやりましょうということにはならないと思いますが、資料の【情報発信・活動の見える化】にある「町会が担っている役割や活動内容、町会費の使い道など、はっきりした広報を行い、加入の勧誘を行うことが重要。」の点について、私は万代町会ですが、私の町会では加入者にも未加入者にも総会資料は全戸

配付しています。そういう努力をしていますが、加入率は低いです。

また、イベント的なものでは、町会活動でできるものでできないものいろいろあると思いますが、万代町会では万代町会のメンバープラスαで「函館の地域福祉を考える会」という会を立ち上げ、いろいろな活動をしております。今、そうなんですかという声をいただきましたが、この会は新聞にもたくさん取り上げられて函館市のモデル地区にもなりましたが、結局興味のない人には伝わらない。町会活性化という点でもどこまでみなさんが函館市全域の町会活動を、新聞を通して見ているかという部分も必要になるのではないかと思います。

向かいに座っている酒井委員は北浜町会で、同じ方面で活動をしているので、同じような活動もしております。

例えば、小さい赤ちゃん向けのプログラムを作り町会でイベントをやりましたが、函館市内からの参加者は少なく、北斗市や七飯町から来る方が圧倒的に多かったです。参加料は子ども一人50円をもらい、最後にお土産でお菓子を配りました。しかし、お母さんたちから出た意見は無料ではなかったのかという意見で、そういう方は次の機会には来ませんでした。一方で、来られた方の中には50円では少なすぎるので、と多く寄付してくださる方もいました。

また、前回意見として出ていた、中学生の居場所づくりということに関して、万代町会でも以前は、隔週土日にサロン活動、居場所づくりをやっていました。しかし、参加者はほとんどお年寄りです。おにぎり一個だけ持ってくればいいよと宣伝しても来るのはお年寄りばかりです。

町会だけで何か活動するには資金の問題もあるので、地域福祉を考える会と一緒に餅つきもします。餅つきをすると、親も一緒にきます。地域福祉を考える会と一緒に活動するので、近くの小学校の児童に案内のチラシを配付してもらい町内の子ども以外にも案内していますが、参加者は在校生の1割程度です。

いろいろと手を変え品を変え活動していますが、町内の方にはあまり理解されず、必ず町会に入るメリットを聞かれます。メリットとして、例えば町を明るくしたり防犯のために街路灯をつけてますよと説明した際に、驚くことに電柱を持って行けと言われたことがありました。だからとってその人の家のために街路灯をつけているわけではないので、そのままにしてありますが、全市的に町会に対しての市民の理解が低いのではないかと思います。

また、市職員の町会加入率が67.5%で市内全体の加入率よりも高いということでしたが、本来なら100%加入で当たり前だと思います。私の知り合いの教員の方で、ある町に住んでますけど町会に加入していません。

そういった話については、ここにいるメンバーだけではなく全市を挙げて真剣に取り組んでいかなくてはならないのではないかと思います。

話は前後しますが、私たち、地域福祉を考える会で教育大の学生に依頼して寺子屋を実施してもらっていましたが、学生のカリキュラムが増えてしまいできなくなりました。それはしょうがないのですが、そういった場所で勉強するのは家が貧しい子どもだという意識の親が多かったです。そういう親の意識も変えていく必要があるのではないかと思います。

あるPTAの関係者はスマホで情報を得られるから回覧板はいらないといった方がいま

したが、でも紙媒体でないと知ることができないものもいっぱいあると思いますので、スマホだからHPがあるからということではなく、紙で伝えなければならない部分も多々あります。

町会の回覧板には市役所や学校からの回覧依頼がたくさんきて、まるで郵便配達をしているかようになっていて、回覧依頼が当たり前のようになってきている姿勢もなんとかしてほしいなと思います。

(菊池座長)

ありがとうございます。非常に興味深いご意見でした。他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

(中山委員)

携帯電話が普及して約25年位経ちました。今はお年寄りでも持っていて、固定電話だった時代からFAXの時代になり、メールの時代になり、LINEやツイッターなどの通信手段は災害の時にも有効ですし、それらが見れないお年寄りがいるから使わないとか、不公平になるということではなくて、そういう発信もしながら、携帯やパソコンも使えない方には使えるような支援や意識改革をしていくべきではないかと思います。

また、前回も話しましたが、街路灯など恩恵を受けていながら、自分は負担しないで一部の人だけの負担ということなら不公平でありますので、税金として町会費を徴収し、税金が投入されるからには、例えば、役員報酬はいくらで、会員全員が承認できるような明確な会計にすれば良いと思います。町会費の使い道がわかりにくいという点がありますので、その点を明確にする。

何のために町会があるのかわからないという方もいるので、LINEやツイッターで情報発信もする、張り紙や回覧板も回す、新聞やテレビでも広告を出すといった広報をして、逆に参加しないことが不公平になるような導き方をしていかないと変わらないのではないかと思います。

(神田委員)

先ほどの永澤委員のお話で、PTA関係者が紙の回覧はいりませんということで、市P連を代表して謝罪させていただきたいなと思いました。

実は、市P連といたしましても今までは学校の中で子どもたちを育てていくという形で、私たち保護者も意識が低く教育のことは学校に丸投げという状況が続いておりました。

しかし、教員の負担も多くなってきたため、教員の負担を誰がカバーしていくのかという話になった時に、地域の皆様の人材の力というものが非常に重要で、その人材の発掘というのが私たちの課題となっています。

学校もPTAも必要としているのは地域の力です。保護者としては、地域の方が理解をして保護者の方が無関心ということがたくさんあるので、市P連としても研究大会や年に何回かある勉強会などの場で、地域のみなさまの力を借りて子育てしていくということを発信し

ていき、町会がその力の入り口になっていることを示していく形をとっていけたら良いのかなと、みなさんの意見を聞いていて思ったところですので、検討させていただきたいと思います。

(浜田委員)

情報発信の点について、地域住民に信頼感が醸成されないとだめだと思います。私が町会役員になる前は、地域の一部の人から町内会の運営はどのように行っているのか、会費はどのように使われているのだろうかと常に疑念の目が向けられておりました。そこで、私が町内会長になって、まず始めに総会資料、予算書や決算書など、総会への出席をお願いはしますがほとんどの人が来ないので、全戸にそういった資料を配付するようにしました。そういうことを行うことで住民から信頼を得られました。

そのほか、毎月町内会の広報を出しています。内容は難しくしないで、フランクな感じで作るようにしたところ、住民からの評判がとても良く、市が発行している市政はこだてよりも読みやすいと言われるようになりました。

町内会と地域住民の信頼関係を醸成していくことが重要であると感じました。いろいろなテクニックを使って広報したり人を集めようとしても効果が薄いため、心で繋がって行くような方法が必要だと思いました。

今日は、参考までに私の町内会で配付した広報を持ってきましたので読んでみてください。

(酒井委員)

私の町会も広報を毎月発行しています。町会以外にも地域の学校や企業にも出しています。広報誌を見やすく、わかりやすく、みなさんが興味を持つためにはカラーでの印刷が良いとは思いますが、コストの問題で町会によっては難しいところもあるのかと感じました。

また、先ほど永澤委員もおっしゃってましたが、収支決算書などの総会資料を全戸配付している点については私たち北浜町会も見習わなければならない点だと思いました。ただ、私たちは資源回収をしています、その際に総会資料や町会だよりなどが捨てられているのを見ると、せっかく資料を作ってみなさんから集めた町会費から印刷させてもらったものなのに捨てられてしまったという気持ちになってしまいます。

私たち町会側はどうにかして興味を引くような工夫をしていますが、考え方の違いやそもそも興味の無い人がいることも事実です。昔は町会に入る人が多かったのですが、いつしか加入しない方が増えていき、私の町会も今では50%切るくらいの加入率となっています。そういう中で若い人たちに町会のことを発信していく方法を考えた方がいいと思いました。これはスマートフォンやインターネットでの情報発信ということではなく、若い人たちの考え方を変えていくようなことを函館市全体で行っていかないとならないのではないかと思います。

また私はCS（コミュニティ・スクール）の関係者としてこの場におりますが、私が所属している五稜郭中学校のCSは市内で初めてCSを作った学校です。そのときに思ったことは、CSを作っても町会に何かやっってくださいと丸投げしているなということです。神田委

員もおっしゃってましたが、確かに町会には人材がいます。しかし、町会は町会で手がいっぱい状況の中、学校からも何かやってくださいと言われると、また仕事が増えてしまうという気持ちになり、学校の先生はウィンウィンの関係ですよとおっしゃいますが、私はそうは思いません。言われる以上は、何かやらなければならないと考え、一生懸命考えながら動きます。先ほど中学生の居場所作りの話が出ましたが、私たちの町会でも学校から言われたので居場所づくりを始めて、子どもたちもたくさん来てくれて順調には進んでいますが、運営する人材がないという問題が出てきました。いろいろと問題がある中で運営していますので何か一つでもここで良い方法を見いだして、自分の町会に発信していけたらと思います。

一番思っているのは、町会に入っていない若い世代の意識改革をしていかなければ根本的に解決しないのではないかと思います。お年寄りと若い世代とその子どもたちという世代の考え方の違いをどうやって繋げていくかということが一番の課題かと感じました。

(菊池座長)

若い世代の方々の中には、ずっとそこに住むわけではないからだとか、単身赴任しているといった理由で町会には入らないという方もいらっしゃると思います。そういった方の現状やご意見がわかればお聞きしたいと思っております。また、市職員のアンケート結果の中で、町会に入ったきっかけの一つとして、賃貸契約の家賃の中に会費が含まれていたという意見もあるようです。宅建協会から来ていただいている竹内委員いかがですか。

(竹内委員)

賃料に町会費が加わっているという物件もたしかにありますが、大家様のご理解がないと不動産会社、管理会社の一存では決められるものではないです。大家様側の立場として、町会に入るつもりのない人から賃料に上乗せして強制的に徴収すると入居率が下がるのではないかという意見もあります。現実的に、不動産会社、管理会社から大家様に提案をしても、なかなかそのような物件は作れないのかなと思う現状です。

(菊池座長)

例えば、戸建て住宅に住み始めた方は加入するきっかけとして挙げられていますが、地域に定住する方、住み続けられる方は興味がありそうですか。

(竹内委員)

我々の業界は、市と町会連合会と協定を結ばさせていただきましたので、宅建協会の会員としてはお客様に住宅等を売買した際に、そのようなことを発信している業者もありますが、100%の業者が行っているとは言いがたい、現状なかなかそこまでお話ししている業者というのは少ないのではないかと思います。

あと、私個人の意見ですが、市職員のアンケートの中で町会費の徴収がめんどろだという意見があったと思いますが、若い世代の方々には集金という業務がめんどろと感じている方が多いと思いますので、若い世代の加入率を上げるためには町会費の集金方法を考える

必要があると思っていました。

(菊池座長)

ありがとうございます。それでは、もう一点伺いたいのですが、今度は新たに入ってこられる方の中に外国の方、特に外国だとコミュニティというのがありますが、町会というのは日本独特の点があると思いますが、その点について島香委員にお聞きしたいと思います。国際交流センターでの外国人の町会に対するの考えや聞かれることなど現状についてお話しただければと思います。

(島香委員)

北海道国際交流センターの島香です。在住外国人や留学生と関わる仕事をしていますが、やはり文化・習慣が違うので、町会というシステム、町会が何をやっているのかわからないと思います。ホームページに書いていますといっても日本語がそんなにわからない方もたくさんいます。私が考えていたのは、優しい日本語を使って、誰が見てもわかりやすいチラシ等を使って町会というのはこういったことを行っています、町会費は〇〇円で使い道はこういったものです、という風に説明した共通のものを使ってお知らせできれば良いなと思います。

市に入ってきた留学生については、各大学で春と秋にオリエンテーションということで暮らし方などの説明を行っています。函館市で作っているリーフレットの説明をするのですが、その中には町会に関する内容が入っていないので、わかりやすい内容で興味をもってもらいやすいものを作ってみてはどうかと思います。

(菊池座長)

非常に興味深いお話ありがとうございました。外国の方だと、文化・習慣がちがうということ、また、私たち日本人はある程度町会という団体がどういう団体かというのはなんとなく認識としてあると思いますが、そういったものがない方々に説明しなくてはいけないということは大変だと思います。私の学校もそうですが函館市も外国人・留学生を増やそうといった取り組みをしているので考えていかなくてはいけないことなのかなと思います。

そのほか、若林委員にもお聞きしたいのですが、前回の会議で自宅の近くの街路灯が切れていてご自身で調べて町会に連絡したというお話しをされたと思いますが、周りの一人暮らしの学生やご友人との間の中で町会の話が出てくるのかということなど、わかる範囲でお話しただければと思います。

(若林委員)

私は、函館市出身で21年間函館に住んでいますが、大学の友人は札幌や東北からきた一人暮らしの人も多いです。町会というテーマが話題にあがったことはありませんが、昨年のような地震などの災害が発生して電気やガスが使えないといった状況になった時に、地域の情報を入手する方法としてはツイッターが一番だと思います。

ツイッターは使い方次第では、有効な情報源だと思いますが、災害時など町全体が混乱している時はネットで流れてくる情報の全てが正しいものばかりとは限らないので、そういう状況のときに私の周りでは電気が使える友人宅にみんなで集まって友人同士で集まって協力するということがみられましたが、昨年の地震は幸いにも函館市内での被害は少なく収まったから良かったのですが、例えば津波だとかもっとひどい被害になっていたらと考えると大学生だけで集まっていて、もっと危険な状況になることも考えられたのではないかと感じていてすごく怖いなと感じています。

何かあったときに日頃から信頼関係が築かれていないと、災害の時など、急に知らない家に行って助け合うということは難しいかなと思うので、地域の中だけではなく例えば大学のプロジェクトとして地域と関わるなど日頃から地域と関わる機会を増やしていければ良いのではないかと思います。

(菊池座長)

顔がわからないと地域との関わりも生まれてこないと思うので、町会の取り組みなどに大学や高専、高校、小中学校などの若い世代と交流を持つというのも大事だと思います。

先ほど浜田委員からいただいた広報をコピーしてもらいみなさんに配付されたと思いますが、このように非常に写真が多くて、自分の顔が写っていると写真を見たりして読まれる機会にもなると思いますし、実際に写真に写るみなさんは良い笑顔をされています。写真に写る方と地域ですれ違ったりすると、あのかのときの写真の方だ、と親近感も出てくると思います。そういうことで、住民同士の信頼関係も生まれてくるのかもしれないです。非常に良い資料だと思いました。

(浜田委員)

今回は写真が多かったのですが、普段は地域の文化とか伝統なども取り扱っています。

それと、活動への参加の話に関連するのですが、地域が違うので参考になるかわかりませんが、私たちの地域では宗教は伝統であったり文化だったりします。神社を存続させるために町内会が中心になっています。町内会がやらないと無くなってしまいます。

このことで感じることは、若い人たちは子どものことになると一生懸命になります。それ以外のことは興味が無い。だから子どもたちを行事に参加させる。過去に言われたことがあります。お祭りの行事に子どもたちに参加してもらおうと、行事の記憶が一生の思い出になるそうです。そして、子どもたちが行事に参加すると父兄たちがくっついてきますので、同じように若い人たちが町会の行事に参加出来るような仕組み作りが必要ではないかと思えます。

そしてそれは町内会だけで単独に考えていても限界があります。地域には社協や老人クラブなどいろいろありますので、その横のつながりが大事だと思います。私たちも町内会で敬老会をやっていましたが、大変になったので町内会ではお祝いをあげるだけにして、敬老会という催しは社協と老人クラブに協力していただいて町内会としては事業費、寄付などを集めるといった協力をしてやるようにしました。

地域にはいろいろな組織がありますからその組織と連携しながら餅は餅屋と考え、できるところにやってもらうという形で進めています。

(菊池座長)

ありがとうございます。若い方の参加が必要ということで、さらにいうと餅は餅屋というような手助けというのは今後必要になってくると思います。

例えば、なかなか町会だけで何かをしようとしても人材不足や高齢化により難しかったり、若い人の参加を促したいけど若い人は興味が無いのか時間が無いのかわかりませんが参加がしづらい。先ほど意見でも出ましたが、若い人を取り込む、若い人に町会員になってもらうというのを目標にするのはなかなかハードルが高いと私は思います。また、別な委員も言っていました、若い方は町会に入る際にメリット・デメリットというような物差しの測り方で聞いてきたり、回覧板についても必要な情報だけ欲しいという方もいらっしゃると思います。まずは、知るきっかけや町の人たちに関わることで住みやすい地域にしていくことが大事なことのような気がします。

その点で、町会活性化プロジェクトはすごく良いモデルだと思います。事務局から配付された資料の中に、函館市西部地区再整備事業「町会活性化プロジェクト」についてという資料があると思いますが、これは元町町会の役員5名と市職員5名が参加して町会の活性化に向けたプロジェクトを試行的に実施していますが、そういう風に大学や高専、専門学校、あるいは民間企業などの若手の方とかと地域プロジェクトとして取り組んで行くことが重要なのかと思います。先ほどの留学生の件もそうですが、大学や高等教育機関がもう少し理解を持って取り組んで行くことが効果的かと思います。

町会に加入しないと参加ができないということではなくて、加入してもしなくても若い人たちはウェルカムで、将来家庭をもって生活基盤をどこかに移すにしても、町会というのは全国的にもいろいろな活動をしていて生活に密着して、個人の生活だけではなく全体の生活を担う役割を持っているということを知っていく必要があると思います。

市職員のアンケート結果の4ページに、町会に加入した理由は何ですかという質問に対する回答のその他の意見として、「町会は加入するものだと言ってきた」という意見があり、すごく良いなと思いました。

若い世代だけではないですが、町会が必要だという状態にならないと加入しない結果になりがちですが、例えばイベントや地域プロジェクト等を市の方から大学や高等教育機関などに参加を促したり、留学生向けの簡単な英語版のリーフレットを作成したり、新入学生が入ってきたときにリーフレットを渡すなど、紙媒体だとゴミになってしまうというお話もあったと思いますが、まずは目に入らないとだめだと思います。

ネットだと情報収集も簡単にできるだけでなく情報を自分の意思で選択ができる。インターネット上に町会のバナーがあったとしても、情報を得ないという選択もできます。紙媒体であれば目には入るので加入率が何%上がるといった問題では無いとは思いますが、まずは存在を知ってもらうことからスタートなのだと思います。

町会の活動内容を知ってもらう、町会に関わることよりも町会があることでその活動に楽

しく参加をしていく、加入しなければならない、何かしなければならないということはまず置いておいて関わっていけることが必要なのかと思います。

そういうことで、前回の会議でも意見が出ておりましたが、外部のノウハウを活用するという、職員が携わっている元町町会の活性化プロジェクトなのかと思います。このプロジェクトではモチを丸めて食べて豆まきもするようですが、結果として、人がたくさん来るかもしれないし、そうでないかもしれないですが、一つのアイデアだと思います。例えば、外部のコンサルタントを入れるとお金がかかるので難しいかもしれませんが、永澤委員のところの大学生だったり、コミュニティ・スクールや民間企業など外部との連携が理想だと思います。例えば先ほど竹内委員がおっしゃっていたように、集金ということは前時代的感が否めませんが、しかしそれをすることで高齢者の見守りや顔をつなぐきっかけになるとも思いますので、今度は連携というようなお話しをしていきたいと思います。

(中山委員)

前日も意見が出ていて、資料にも載っていますが、「町会と学校が連携を図るうえで、町会区域と学校区域の違いが支障になることがある」ということについて、私が思うことは、例えば学区と町会の区域を統一はできないのか。今は学校の統廃合が進んでいるので学区も広がってしまっていますが、町会と学校の連携は不可欠だと思います。浜田委員もおっしゃってましたが、子どもに関することであれば親は一生懸命になりますので、町会活性化の道としてその点で何か仕組みを作っていた方が良いと思います。

また、仕事を終えた人の方が時間が圧倒的にあるので、町会が働いている世代より上の世代の方中心になるのは当然ですが、その意見が強く若い人が入れない、意見が通らないとなると入ってこなくもなりますので、風通しを良くするという一方で、例えば予算書決算書を全て開示するなどして、開かれた町会を作っていくことが重要だと思います。

(菊池座長)

事務局に確認したいのですが、町会区域と学校区域の違いというのは大きいと思いますが、町会区域を例えば拡大したり合併したりするのは、町会同士の話し合いになるのでしょうか。

学校区域が広がっている中、同じ学校でも複数の町会や町にまたがっていたり、同じ町会や町でも学校が分かれていることもありますよね。

(事務局 本吉市民部長)

町会の合併や、分割についてのお尋ねですが、町会は自治組織なので町会内のことや相互の町会のことは、相互の話し合いで合併するなどしており、近年もいくつかの町会で例はあります。

そのほか、学校区域と町会区域が違うということについてのお尋ねですが、学校区域は通学距離や通学路の関係もあり子どもたちのためにやはりこちらが優先されるべきなのかと思います。

町会区域の部分は、いろいろと経緯や伝統・文化があり、現実的に町会区域と学校区域を

合わせることはなかなか難しいのかなと思います。

ただ、かなり近い状態で、例えば1つの学区に対して複数の町会が入ってダブっている部分もあると思いますが、そういうところは考えて町会の中でやっていくことも可能だと思います。また、細かくなっている町会や小さい町会が複数ある地域もありますが、そういうところは町会はそのままにしても活動は一緒に動くといったことも考えられます。

(酒井委員)

「町会と学校が連携を図るうえで、町会区域と学校区域の違いが支障になることがある」と書かれていますが、私たち北浜町会には子どもがすごく少なくて、前回もお話しましたが、学校と連携した方が助かる面も多かったので学校に声をかけて敬老会を開きました。そのときに学校の中に地域の掲示板を作っただいて、学校や町会など関係なくお手伝いいただける方を募ったところ10人以上集まりました。その時に町会の中では例えば、町会の行事に町会外の子どもたちが来るので何かあったときの保険などいろいろと問題があるのではないかという意見も出ましたが、私たちの反省として、子どもたちが違う町会と仲良くなり、その仲良くなった子どもが町会活動って実はこんなに楽しいんだということがわかれば、私たちがその子の町会に行って町会に興味がある子どもがいますよと教えてあげたところ、その町会がコンタクトを取って繋がることのできたということもあったので、そういう面では自分たちが自分だけを一生懸命やるのではなく、違う区域の子どもたちからつながって違う町会とも繋がって連携していけば良い関係になると思います。そこで「支障になる」ということ全てが悪いわけではないのかなと思いました。

(神田委員)

校区についての学校側からの意見として、実際学校を中心として町会にお願いをして子どもたちと学校と町会で行事をする際に、学校の中で行うものについては何も問題はないのですが、いったん学校を離れた時の行事が引っかかってきます。例えば、子どもたちが外に出る行事の場合は、鍛冶町会や本通中央町会など、町会同士のコミュニケーションを取ってもらってお互いにフォローしてもらっているという現状です。

町会ごとにシステムや考え方などいろいろと違うので、私のところでは学校を中心とした行事を町会と共に実施していくという形を取っておりますので、町会と学校の調整は私が行いながら一番良い形を取って活動していますので、できればわかりやすい区域になってくれれば活動もしやすいということもありますが、難しいということもわかりますので町会同士のコミュニケーションに頼っているところです。

(浜田委員)

町会との調整や町会同士のコミュニケーションの問題については、解決策があります。

例えば、私は恵山地域の町内会ですが、恵山地域には8個の町内会があります。その上に、恵山地区町内会連合会があり、さらにその上に函館市町会連合会東部地区協議会があり、一番上に函館市町会連合会があります。今、函館市内の町会の上に地区の町内会連合会がない

ために問題が生じているのではないかと思います。

私たちの町内会は単位が小さく予算が限られるので、8個の町内会が組んで恵山地区町内会連合会として活動する行事もあります。だから、神田委員のお話の例でも、地域の町会が組んで連合会を作ってその組織で動くと思われたいと思います。それができないのは、昔から何十年も同じように行ってきた弊害なので、これを機会に市内の町会も小分けに連合会を組んで行けば良いと思われたいと思います。連合会になることで、会長同士が集まるようになりすぐ連携がとれるようになります。市内の町会連合会も各地区の下に連合会を作るなど、そういう改革も良いことだと思われたいと思います。

(形部委員)

私の町会は神田委員の例とは逆で、区域に2つの学校がまたがっています。どちらの学校も、複数の町会が校区に入っているなのでそれぞれ連携してラジオ体操や交通安全指導などの活動を行いましょうと、町会同士で連携を取ってそれをコミュニティ・スクールがまとめているという形になっています。

なので、コミュニティ・スクールで考えたものを町会に下ろしたり、町会がやってみたい活動をコミュニティ・スクールに上げたり、浜田委員が言うように町会長同士は仲が良いので連携を取りあって活動しています。

何度か話題に上がっている回覧板についてですが、私は回覧板をまわす本来の目的は安否確認だと思われたいと思います。私の町会の回覧板に何度か書かせてもらって、隣の高齢者の安否確認をお願いしますという風に若い方にもお願いしています。確かに、SNSを使うことは便利なのですが、菊池座長の言うように見る見ないは本人たちが決めるので、どうやったら読んでもらうことができるか工夫が必要になります。

加入促進もいろいろなパターンでビラを配ったりとか、町会を身近に感じてもらえるように努力はしているところではあります。

(平形委員)

みなさまのご意見を聞いていて、私も子育て世代なのですが、町会の活動への参加というのがなかなか難しいと思われたいました。そういった中で、市職員のアンケート結果にも書いてありますが、「会費のみ会員」や「子どものみ会員」など選択肢を増やすというような意見があり、これは財源についての意見だと思われたいますが、やはり財源という部分は重要な問題になってくると思われたいと思います。函館市は人口の減少が非常に問題になっているところで、結果的にそれが今は高齢者が多くて町会に加入している人や会費を納めている人がいますが数年後には高齢者が少なくなり財源も少なくなります。一方で、引越等で新たな地域にやってくる方もいますが、そういう方には加入の勧誘がいないという場合もあり、もしかしたら本来はもらえるはずの会費を集められていない可能性があります。町会のシステムというのは、任意であるはずが一度会費を払うとずっと払い続けなければいけず、半ば課せられたものという面もあると思われたいと思います。

その点を逆に日本でも最近根付いて来ていると思われたいますが、寄付の文化、クラウドファン

ディングや基金という部分で、町会も「会員」ではなく「賛助」というように、まちづくりのためにお金を使ってほしいというふうな、ふるさと納税のように納税をすると何か見返りがくる寄付のシステムが出来てきているのではないかと思うので、そういうところで若い人に向けてまちづくりに参加してみませんかというようにしてお金を集めて、例えば高齢者や教育などそれぞれの地域課題の解決にお金を使っていくようにすれば良いと思います。他の委員の方も仰ってましたが、会費を納税という形で納めてもらうという意見も出てましたが早期に実現は難しいかもしれませんので、まずは間口を広げて資金を集めていって地域の課題解決のためにお金を使っていくという方法が大事かと思いました。

(常野委員)

私も、浜田委員の意見のとおり、加入率の問題と活性化の問題は両輪ではありますが別物として考えていったほうが良いと思いました。それらをさらに分類して優先順位を立てて考えていくことが大事ではないかと思います。会議のスケジュールで行きますと、次回以降で課題を出したり施策について検討していき、今回まではいろいろな意見交換なのかなと思って聞いておりました。

活性化の方に特化して私から話しをさせていただきますと、酒井委員から町会同士の繋がりという意見が出ておりましたが、実は昨年12月に町会連合会主催の町会長向け研修会に包括支援センターが講師として携わらせていただいて、そこで包括と町会の連携や実際にまちづくりの実践報告をしてディスカッションする場がありました。グループワークをしていた中で、町会長さんから初めて聞いた取り組みがあったり、自分の町会でも参考にしたいという意見がたくさん出ていました。もちろん町会連合会さんがあって連携を図っていらっしゃると思いますが、他の町会の取り組みを実際に見てみるということも非常に効果的なのではないかと思いました。実際に見てみることで町会同士の連携に繋がるかもしれませんし、具体的に何かと言うことはこれから皆さんの意見をいただきながら検討していくことになると思いますが、方法の一つとして提案させていただきました。

(大矢委員)

私も皆さんの意見を聞いて、連携ということが重要だと感じました。前回出た意見を取りまとめた資料の連携の項目に、「町会、学校、企業および地域の団体などが意見交換する機会を設けることが重要だと思う。この際、町会だけで声をかけてもなかなか集まらないが、地域包括支援センターが主体になると参加者が多くなる。」と記載されていますが、市内に包括支援センターは10カ所あり、その方が町会と連携していくことでこれからの高齢化社会も上手く対応できるのではないかと思います。

それで、日本全国の例として、島根県雲南市で小規模多機能自治というものを行っています。函館の町会でも、小規模多機能自治を取り入れると入会に対しての意識というものが変わってくると思います。小規模多機能自治というのは、住んでいる地域の人が地域のまちづくりに関わるということで、例えば、函館では業者の方が水道メーターを計りに行きますが地域の方が計りに行きます。そうすると、普段はこれくらい水道を使っていたのに少ないか

ら何かあったのかということが地域の中でわかるようになります。年に数回保健師さんも同行して水道検針にまわるので、高齢者の体調もそのときに確認をしているようです。

私は実際に雲南市に行ってはいませんが、まちづくりセンターの職員が実際に視察に行っていますので、いずれ時間をとって小規模多機能自治とはどういうものなのかみなさまと共有する時間をいただきたいと考えております。函館の町会に良いものを取り入れるための参考として情報を共有したいと思っています。

(坂野委員)

みなさんからの意見を聞いていて、財源についての意見も出ていましたが、町会の財源的に充分なのかどうかという部分、また市内全域で町会費が一律なのかという部分で、私も町会の班長をやったことがあり引っ越してきた方がいたので勧誘に行った際に、その方は前の町会よりも町会費が高くて払いたくないという方がいました。そういう家は素通りしても良いと町会からも言われていたのでそのまま総務の方に伝えて、その家からは会費をもらいませんでした。町会費のアンバランスさが加入率にも影響しているのではないかと思います。市からの町会交付金は世帯数ごとに交付されているのでしょけれども、それ以外の部分で実際に町会が活動する財源である町会費のところを、もう一度考えていかないと、財源なしに活動をやっているのかなというところが、財源的な、金額的なことが出たのが町会費という言葉だけだったので実際にその辺のところも考えた上で、一律の経費があった中で活動を均一化していけるものなのかどうかということも考えていきたいなと思っていました。

(菊池座長)

ありがとうございます。各町会によって財源や予算の確保は変わってくると思いますが、やはり数十年前に比べて加入率は低くなっているんで、財源の状況は各町会でいろいろあると思いますが何かご意見はございますか。

(笹谷委員)

財源のお話ですが、市が今課題視している町会の活性化という点で見たときにみなさんがお話ししています、高齢化に伴う問題、災害時の対応、子どもたちの見守りという部分が大きく市でも市長の方でも問題視しているところだと思います。

一方で、役員の高齢化と若者の町会離れというところが、なんとかしなければならぬという状態の中で、活性化にはやっぱり財源が重要で財源がなければ活動ができないという実情があると思います。

この財源ですが、先ほども出ていましたが会費が100円の町会もあれば1,000円の町会もあり大きくかけ離れていて、それはイベントや役員報酬の有無など町会によって活動内容が異なりますので一定の金額にすることは難しいと思います。

一定の金額にする前に、街路灯の問題、加入する・しないに関わらず、恩恵を受けている人は会費の中のいくら分が街路灯の電灯料の分だということを明確にした上で、お金をいただくという風にしないと若者の町会離れ、市職員のアンケート結果でも加入しなくても特に

支障は無いという意見があったように、今函館市に住んでいる市民一人ひとりの気持ちで函館市をなんとかしようという思いがない意見かなと思っています。

以前にもお話しさせていただきましたが、今何で困っていて、これから何に向かっていくのか、町会が行っている活動の重要性の部分を多くの方に知ってもらう活動から、加入率や会費だけしか払わない方もいらっしゃると思いますが、不公平感などは和らぐのではないかと思います。

第一生命の私のいる事務所は、異動してくる人が多く、私も3回転居して1つの地区では全く勧誘がなかったですし、私もみなさんの意見を聞くまでは、別に参加しなくても支障はない状態だったということも前回は話しましたが、そういう経緯があったので、前回の会議の後、社内で20人くらいですがアンケートを採りました。結果は7割の人が未加入で、未加入の理由も勧誘に来ていないからという理由が圧倒的に多かったです。一方で、役員からの勧誘が来ないというのは一言で言えない、役員の高齢化の問題などがあると思います。

また、浜田委員からいただいた資料も見せていただいて、私は檜山が実家ですが今でも帰ると同じような風景を目にします。ここは本当に人と人の絆が深く、こういう形が理想だと思いますが、市内に来ると定住せず転居する方やあるいは企業が多いので賛助会員の呼びかけもこれからは必要であると思いました。

連携というところでも、企業や地区の別な団体との意見交換や賛助会員というところでイメージが湧きました。

(菊池座長)

ありがとうございます。もちろん働き世代の方々の参加があることも重要ですが、財政の面で町会費が高いところもあれば低いところもありバラバラということで、そうするとやはり地域によってはなんでだろうと思うこともあると思います。人口が減っていますし、加入率が減っていくことで財源の確保もなかなか厳しいと思います。そういう点で、実務的なやりくりの課題などをできればお聞きしたいのですが、山田委員いかがですか。

(山田委員)

私は鍛冶町会の事務員をしておりますが、財務の関係は総務部長とやっていて詳しいことはあまりわからず申し訳ありません。鍛冶町は4,000世帯くらい住んでいるのですが、加入世帯は2,000世帯で年々減っています。加入している方でも班長業務が大変という方もいて、とくに年配の方で会費の集金が大変みたいで班長をやらなければならないのであれば町会をやめようかなという人もいます。先ほど話しに出ていた振込にできないかという相談もありますし、その際に振込手数料がかからない形で対応してもらえないかという相談をされることもあります。

(菊池座長)

ありがとうございます。市の職員アンケート結果でも、役員や班長の経験はありますかという質問に対して、経験が無いという方の方が少ないです。役員や班長の仕事があるという

ことが足かせになっている部分は若干あるのかもしれないですが、しかし誰かがまとめないと活動が成り立たないですよ。

私の子どもは学童に行っていて、学童にも保護者の役員があり必ず役員の希望を取ってくるのですが、その中には役員を希望しないという選択肢はありません。役員をします、もしくは何年後なら役員になれる、もしくは現在やっているという3択しかありません。このように必ずまわってくるものだとすると気持ち的なプレッシャーはあると思いますが、例えば子育てが一段落したらとか、何かしら予定が組めれば良いのかなとか個人的に思います。あるいは班長という仕事・役割を働き方改革として分担することができないかと思えます。

時間も迫ってきてまいりましたので、他に何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

(浜田委員)

私たちはやはり財源が一番の問題です。恵山地区は合併当時、4,000世帯近くいた世帯数が今では3,000世帯を切っていて1年に100人くらい減っています。それで今、町内会の会館は維持できないという話になっていて、市内の町会は人数が多いので自分たちで会館を持って維持できるでしょうけれど私たちの町内会は単位が小さいので絶望という状態です。

そして次に来るのが、街路灯のLED化の問題だと思います。今、恵山地区の街路灯は支所で持ってくれています。これは良いようで悪くて、例えばLED化が進まない、LEDは電気代が安いので水銀灯のままだと無駄に経費をかけている可能性がある、また世帯数が減っているので街路灯の数を削減されていっている、その状態で熊や鹿が歩いている、という状態になっています。そういう状況なので、町内会で自主運営しなければならないと思っています。

しかし、一回に投資することが大変で、そのお金すらもないです。それで、来年度から町内会費を値上げしようとも考えていて、当然値上げしたら悪者になりますがそれでも値上げせざるを得ない状況です。

それで支所に相談したこともあります。支所は町会のみなさんが頑張っているのはわかるので協力してあげたいという気持ちはあるけれど、支所には裁量できるお金がないんです、と言います。それはちょっとまずいなど、やはり向こうの地域をよく見ているのは支所関係ですから、支所に裁量できるお金を渡しても良いのではないかと思います。いろいろと活発に活動している町会はあるもやりたい、これもやりたいと思っていますが会員も減っている中で財源が少なくなり泣いている町会も多いです。なんとか市の方でやる気のある町会には支援をお願いしたいです。

(酒井委員)

今のことに関連して市の方にお聞きしたかったのが、2年くらい前に工藤市長が町会長の集まりで、納税の形で町会費を集めるとお話ししていました。私たちはそれができるかどうかまでは考えなかったのですが、市長が言ったのでその後どうなっているのか、どのように進んでいるのか教えていただければと思います。

(事務局 本吉市民部長)

この会議を進めるに当たりこの話題は出るなと思っていました。あのとき市長が言ったのは、先ほどもお話が出ていましたけど町会費を払っている方払っていない方の問題、また、高齢者が集金に来る状況に対してまずいなと感じたことや、街路灯など公共の利益を享受している。その部分に関しては、今町会のいろいろな補助金がたくさんあって手続きが大変だと思うので利用しやすいような形に出来ないだろうかというお話でした。

その中で、町会費を集めないような形にできないのかと言う話も話題としては出たと思いますが、そこについては安否確認ができなくなるといった意見もあつたりしました。ただ、基本となる活動に対しての財政的支援を考えられないだろうかということも含めた総合的な話で、今回の会議を立ち上げて町会の活性化ということを根本的に考えていくことになっています。今回の会議では財源に関してや、人手、また区域についてなどいろいろ意見が出てきました。こういう意見を踏まえて、新たな展開を考えていきたいと思いますので今後も活発な討議をお願いしたいと思います。

(菊池座長)

まとめていただきありがとうございます。お時間が迫っていて話し足りないかもしれませんが、本日出た意見を踏まえて次回に繋げていきたいと思います。

時間も迫ってまいりましたので、次に進ませていただきますが、「その他」について、事務局からお願いします。

(事務局 米田市民・男女共同参画課長)

それでは、若干ご連絡差し上げたいと思います。

本日、時間が無く意見が出せなかった方、追加で意見がある方は、後日でよかったですので、事務局のほうに、電話やメールなどの方法で、ご連絡いただければと思います。

また、最後に次回の会議ですけれども、皆様の任期が今年度末で切れますので、改めて委員の選任手続きを行いまして、5月頃で調整できればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。私のほうからは以上です。

(菊池座長)

委員の皆様から、何かございますか。

無いようなので、以上で本日の議事を終了いたします。それでは事務局にマイクをお返ししたいと思います。

(事務局 奥ヶ谷主査)

以上をもちまして、第2回函館市町会活性化検討会議を終了させていただきます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。お疲れ様でした。